

東京 2020 オリンピック・
パラリンピック競技大会に
関する浦安市の取り組み報告書
(概要)



浦安市

地域振興課

令和4年2月

目 次

I. 総括	1
II. 各種事業	5
1. ホストタウン4ヶ国などとの交流について	5
2. 聖火リレーについて	11
3. 機運醸成などの取り組み	13
4. 都市ボランティアについて	18
III. 新型コロナウイルス感染症による影響と対応	19
IV. オリンピック・パラリンピック推進事業に要した経費	21
V. 今後について	22

I. 総括

令和2年(2020年)夏に開催が予定されていた「東京2020オリンピック・パラリンピック(以下「オリパラ」という。)競技大会」は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により一年延期となり、令和3年(2021年)夏の開催となりました。

一年延期になったものの、新型コロナウイルス感染症は終息せず、開催都市となる東京都などが緊急事態宣言発令下の中で、緊張感を持ちながら感染対策を万全にしてのオリパラ競技大会の開催となりました。本市においても、一部の市民からはキャンプの受け入れ反対や、感染拡大の不安などの意見をいただくなど、全ての市民に大歓迎されるキャンプの受け入れとはならず、異様な雰囲気の中でのキャンプとなりました。

本市は平成29年(2017年)より5年間にわたり事前キャンプ誘致や、各種機運醸成、また国際交流の促進、共生社会の実現などに向けて取り組んできました。

市の体制については、平成29年(2017年)7月にオリパラ推進室、及びオリパラ調査検討委員会を設置し、本市のオリパラ競技大会への関わり方についての整理などを行いました。

その後、オリパラ競技大会に積極的に関わっていくため、推進体制を構築し、同年9月に市長を本部長とするオリパラ推進本部、また推進本部の下部組織としてオリパラ推進本部幹事会を設置し、大会に向け万全な態勢で取り組みを開始しました。

本市の取り組みは、平成30年(2018年)3月に策定した「浦安市2020東京オリンピック・パラリンピック基本方針」(以下、「基本方針」という。)に掲げた、以下3つの柱を基本的な考えとして実施してきました。

I. スポーツの普及と健康づくりの推進

II. 多様性を尊重したひとづくり・まちづくり

III. 文化芸術活動の活性化と魅力の発信

オリパラ推進事業の中心事業として、平成 29 年（2017 年）から令和 3 年（2021 年）の間に合計 6 ヶ国（英・スロバキア・仏・蘭・豪・日）6 競技団体のキャンプを延べ 11 回受け入れ（2020 年以降はコロナ禍の影響により 2 ヶ国（英・仏）2 競技団体延べ 7 回が中止）、スポーツを通じた国際交流・文化交流を行ってきました（2020 年以降はコロナ禍の影響によりオンライン交流等）。また、浦安市はパラスポーツの支援を基本方針で掲げており、パラ競技の受け入れなどを軸に共生社会の実現に向けた取り組みにも力を入れてきました。

このキャンプ受け入れをきっかけにホストタウン登録を行った 4 ヶ国（英・スロバキア・仏・蘭）との交流について、令和 3 年（2021 年）に予定していたイベントや交流は、コロナ禍のため変更や中止となりましたが、小中学生及び高校生が各国代表選手とオンラインによる交流やインタビューをするなど、限られた状況の中で、できる範囲の最大限の交流をすることが出来ました。

オリパラ競技大会直前のキャンプは、コロナ禍（緊急事態宣言発令中）での開催であり、アーチェリーオランダ代表と陸上スロバキア代表の 2 団体の受け入れとなりましたが、コロナへの対策（完全隔離や毎日の PCR 検査、オンラインによる市民交流等）を徹底してキャンプ受け入れを行い、市民にも不安を持たせることなく、また両国の選手たちにも十分満足いただけた様子でした。

アーチェリーオランダ代表については、男女混合団体の部で銀メダルを獲得し、大会後に報告のため市長を訪問していただきました。

《直前キャンプ受け入れにおける主なコロナ対策》

- ①選手団と市民との接触が無いよう、宿泊施設と練習会場以外の移動不可
 - ・移動：専用車（市バス）による移動
 - ・宿泊施設：ケース①施設貸切
ケース②客室までの移動は一般客とは別動線。練習時以外は客室から外出禁止。食事は各客室でとる。
 - ・練習会場：貸切
- ②選手団及び受け入れ関係者に対し、国の指針に基づく、PCR 検査を実施（千葉県が手配・費用負担）
 - ・選手団は、入国後毎日 PCR 検査。
 - ・受け入れ関係者のうち、濃厚接触者となる者については、対応 2 日前～当日まで毎日 PCR 検査。

オリパラ競技大会に向けた機運醸成などの取り組みについては、オリパラ事業を開始した当初から、事前キャンプの積極的な受け入れや、市内イベントでのブース出展などを通して、市民へのPRなどに努めてきましたが、世界的な新型コロナウイルス感染拡大を受け、事前キャンプのキャンセルやPR活動の自粛を行いました。ホストタウン国等との交流をオンラインで行うなど、限られた中で機運醸成を図ってきました。

オリパラ競技大会には、本市にゆかりのある選手等が8名も出場し、オリンピックで金メダルと銀メダルを1つずつ、パラリンピックでは金メダル1つ、銀メダル3つ、銅メダル3つを獲得するに至りました。本市はこの選手たちとホストタウン4か国を紹介するパネルを大会前に制作し、市民ホールで展示を行うなど、PRも行いました。また、オリパラ競技大会終了後には、選手等に大会の報告として市長を訪問いただき、令和3年9月1日に制定した浦安市特別表彰をゆかりのある選手等すべてに行いました。

オリンピック聖火リレーについては、本市は千葉県の3日目に公道にてリレーを実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、県内各区間の公道におけるリレーは中止となり、各日程のセレブレーション会場で無観客の点火セレモニーが開催されました。千葉県によって選出された浦安市を走行予定であったランナー（2名）は松戸市で行われた点火セレモニーに参加しました。

パラリンピック聖火リレーは、浦安市で「浦安の火の採火式」を実施し、その火を市原市の集火式会場へと運び、県内全市町村で採火された火を一つにした「千葉県の火」として、東京のパラリンピック開会式会場に運ばれました。浦安の火の採火式には、市内在住の未来のパラリンピアン2名が参加し、浦安の火を熾してくれました。また、そのうちの1名が千葉県の集火式に参加し、浦安市の代表として堂々と大役を果たしてくれました。

オリパラ競技大会の開催年となった令和3年度のオリパラ推進事業に要した経費については、新型コロナウイルス感染拡大により大会が無観客開催となったこと、またキャンプやイベント等が中止になったこと、オリンピック聖火リレーの公道での実施がなくなったことなど、当初予定していた大会の規模が縮小されたことにより、歳出予算が当初の見込みより大幅に下回ることとなりました。令和3年度の当初歳出予算は合計59,478,000円でしたが、決算見込み額（令和4年1月12日時点）は2,317,667円、内訳が委託料1,542,500円、消耗品費173,766円、使用料及び賃借料288,740円、その他312,661円

となっています。

この様に、平成 29 年度から令和 3 年度にかけて実施してきたオリパラ推進事業の成果としましては、競技観戦や公開練習などを通して約 3,250 人の市民に競技に触れる機会を、競技体験会などにより約 850 人が車いすバスケットボールなどを体験する機会を、また、各国競技団体との競技体験や文化交流、オンライン交流などを通して約 800 人の市民に国際交流の機会を提供することができたことです（競技体験と国際交流の人数は重複有り）。

また、これらの事業実施や国際交流を行うにあたり、浦安市国際交流協会や市内大学生・高校生たちを中心に延べ約 300 人にボランティアとしてご協力をいただきました。

更に、各国競技団体や本市に縁のあるオリンピック・パラリンピアンとも交流を深めることができました。

これらの事前キャンプ受け入れをはじめとするオリパラ競技大会に関する取り組みは、オリパラ競技大会までの取り組みとして終わらせるものではなく、各キャンプ受け入れ国・競技団体や日本人のオリンピック・パラリンピアンなどとの交流、また、障がいのある方などへの理解促進などの共生社会実現に向けた事業などを継続し、浦安市のスポーツ振興や国際交流を発展させると共に、共生社会の更なる実現を目指していきます。

Ⅱ. 各種事業

1. ホストタウン4ヶ国などとの交流について

平成29年（2017年）から令和3年（2021年）の間に合計6ヶ国（英・スロバキア・仏・蘭・豪・日）6競技団体のキャンプを延べ11回受け入れ、スポーツを通じた国際交流・文化交流を行ってきました。

（2020年以降はコロナの影響により2ヶ国（英・仏）2競技団体延べ7回が中止）

また、本市はオリパラ競技大会に向けたキャンプ受け入れを通じて、英国・スロバキア・フランス・オランダの4ヶ国のホストタウンに登録し、事業を展開してきました。

<ホストタウンとは>

東京2020大会を契機に、全国の自治体が参加国・地域の「ホストタウン」として大会前から大会後まで人的・経済的・文化的な相互交流を行うことにより、スポーツの振興、教育文化の向上、共生社会の実現を推進する内閣官房が平成27年（2017年）9月30日に創設した取り組みです。

総登録件数 461件（共生社会ホストタウンは105件）

登録自治体数 533自治体

国・地域数 185件

※1 上記件数は令和3年（2021年）7月時点

※2 共生社会ホストタウンとは、パラリンピアンとの交流をきっかけに、共生社会の実現に向けた取り組みを推進するホストタウンで、平成29年（2018年）11月に創設されました。

<浦安市のホストタウン登録>

時期	国名など
平成30年2月28日	英国のホストタウンに登録
令和元年6月28日	スロバキアのホストタウンに登録
令和元年8月30日	共生社会ホストタウン（英国）に登録
令和元年10月31日	フランスのホストタウンに登録
令和2年3月31日	オランダのホストタウンに登録

(1). 英国との交流について



	年 月	内 容	主な取り組み
①	平成 29 年 8 月	車いすバスケットボール男子英国代表の国際大会に向けた事前キャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本代表との公開練習試合 ・中学生との交流
②	平成 30 年 2 月	車いすバスケットボール英国代表の浦安市における事前キャンプ実施に係る合意書締結	
③	令和 2 年 2 月	車いすバスケットボール女子英国代表の国際大会に向けた事前キャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本代表との公開練習試合 ・小学生との交流 ・日本文化体験



平成 29 年キャンプ公開練習試合



平成 29 年キャンプ市民交流



平成 30 年合意書調印式



令和 2 年キャンプ 華道体験



令和 2 年キャンプ 市民交流

(2). スロバキアとの交流について



	年 月	内 容	主な取り組み
①	平成31年4月	スロバキアオリンピック委員会の浦安におけるキャンプの実施に関する覚書締結式	
②	令和2年11月	駐日スロバキア大使の市長訪問	
③	令和3年7月	陸上スロバキア代表の東京2020大会直前キャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア向け公開練習 ・小学校及び児童育成クラブとのオンライン交流



平成31年覚書締結式



令和2年スロバキア大使市長訪問



令和3年キャンプ オンライン交流



令和3年キャンプ 記念品交換

(3). フランスとの交流について



	年 月	内 容	主な取り組み
①	令和元年9月	カヌースプリント・パラカヌーフランス代表のキャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・覚書締結式 ・市カヌー協会との交流
②	令和元年10月	カヌースラロームフランス代表のキャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの市長訪問 ・児童育成クラブとの交流
③	令和3年7月	高校生からスラローム選手へ取材	
④	令和3年8月	パラカヌー選手とオンライン交流	



令和元年覚書締結式



令和元年市カヌー協会と交流



令和元年 児童育成クラブとの交流



令和3年 スラローム選手へ取材



令和3年 パラカヌー選手と交流

(4). オランダとの交流について



	年 月	内 容	主な取り組み
①	平成 30 年 8 月	アーチェリーオランダ代表のトレーニングキャンプ	<ul style="list-style-type: none"> 市民クリニック 弓道体験
②	令 3 年 3 月	在日オランダ大使館職員による講義	
③	令和 3 年 7 月	アーチェリーオランダ代表の東京 2020 大会事前キャンプ	



平成 30 年市民クリニック



平成 30 年弓道体験



令和 3 年大使館職員の講演



令和 3 年キャンプ 練習風景

(5). そのほかの国との交流について

①オーストラリア

	年月	内容	主な取り組み
①	平成30年6月	車いすバスケットボール女子 豪州代表キャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本代表との公開練習試合 ・小学生（H30）、学生ボランティア（R元）との交流
②	令和元年8月		
③	令和2年・3年	小中学生と、豪州の同世代とのオンラインなどによる交流	



平成30年キャンプ 公開練習試合



令和2年 小中学生同士のオンライン交流

②日本

	年月	内容	主な取り組み
①	平成30年5月	パラアーチェリー日本代表強化合宿	・市民対象公開模擬演技
②	令和元年5月	パラアーチェリー日本代表強化合宿	・小学生との交流



平成30年 強化合宿



令和元年 小学生との交流

2. 聖火リレーについて

浦安市は、東京 2020 オリンピック聖火リレーの走行ルートに選定され、千葉県の最終日（3日目）走行となる 2021 年 7 月 3 日（土）の第一区間に走行を予定していました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、令和 3 年 5 月 27 日に千葉県が県内全区間における聖火ランナーの走行を中止とし、各日のセレブレーション会場において無観客の点火セレモニーを実施することを決定したため、本市内における取り組みは全て中止となりました。

また、東京 2020 パラリンピック聖火リレーについては、全国の都道府県の火を東京都に集める集火式に向けて、「千葉県の火」を集める集火式に参加するため、市内では「浦安の火」をおこす採火式を予定していました。

この採火式については、新型コロナウイルスの影響はあったものの、規模を縮小し関係者のみで 8 月 18 日（水）に実施し、同日に本市の代表者が「浦安の火」を持って、千葉県集火式に参加しました。

《千葉県における東京 2020 オリンピック聖火リレー 点火セレモニー（3日目）》

日にち：令和 3 年 7 月 3 日（土）

場所：松戸市（松戸中央公園）

千葉県が選考した、本市にゆかりのある市内走行予定ランナー 2 人も参加。



本市第 1 区間を走行予定だった
京谷 和幸 さん
（車いすバスケットボール
男子日本代表ヘッドコーチ）



本市最終区間を走行予定だった
小林 澄子 さん
（浦安市医師会 元会長）

《東京 2020 パラリンピック聖火リレー採火式》

(1) 「浦安の火」採火式

日 時	令和3年8月18日(水)
場 所	東野パティオ(東野地区複合福祉施設)
採火者	坂口 竜太郎 さん(車いすテニス 高校3年生) 橋 龍平 さん(車いすテニス 中学2年生) ※両名とも浦安市の令和2年度オリンピック・パラリンピック 等選手育成補助金事業育成選手です。



(2) 千葉県集火式

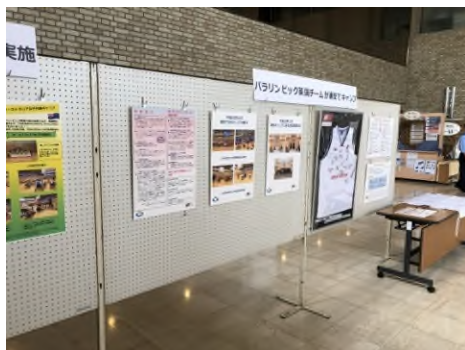
日 時	令和3年8月18日(水)
場 所	市原スポレクパーク



3. 機運醸成などの取り組み

(1) 市内イベントでの啓発

	年月	件名	内容
①	平成30年10月	「第21回浦安市民まつり」における東京2020大会およびラグビーワールドカップ2019の機運醸成ブース出展	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル展示 ・体験（VRフェンシング、競技用車いす体験）
②	令和元年5月	「浦安春まつり」におけるラグビーワールドカップ2019及び公認キャンプチーム等紹介ブース出展	車いすバスケットボール英国代表紹介、英国大使館交流
③	令和2年10月	2020浦安スポーツフェアにおけるホストタウン啓発ブース出展	ホストタウン紹介パネル展示
④	令和3年11月	「第24回浦安市民まつり」における東京2020大会及びラグビーワールドカップ2019の実施報告ブース出展	<ul style="list-style-type: none"> ・各国紹介パネル、聖火リレートーチなど展示 ・車いすバスケット体験 ・トークショー



平成30年 市民まつり



令和元年 浦安春まつり



令和2年 浦安スポーツフェア



令和3年 市民まつり

(2) オリパラ競技の体験などによる、競技の普及促進

	年 月	件 名	備 考
①	令和元年7月	日本フェンシング協会による学校訪問	東野小学校、見明川中学校を訪問
②	令和元年8月	第 18 回全国車いすバスケットボール大学選手権大会（市は共催） （日本車いすバスケットボール大学連盟主催）	・車いすバスケットボール 無料体験講座も実施



日本フェンシング協会による学校訪問



第 18 回全国車いすバスケットボール大学選手権大会

(3) 浦安市にゆかりのある東京 2020 オリンピック・パラリンピック
出場選手等について

オリパラ競技大会には、浦安市に所縁のある選手が多く出場しました。この選手達を市民の皆さんに応援してもらうことを目的に選手等を紹介するパネルを作成し、庁舎1階市民ホールにてパネル展を開催しました。

※併せて、浦安市のホストタウン国を紹介するパネルも展示。

日程：令和3年7月26日（月）から10月15日（木）まで

場所：市役所1階市民ホール

選手など名	競技	縁	メダル
中村 妃智 選手	自転車女子マディソン	在住	金・銀
ウルフ アロン 選手	柔道男子 100kg 級	在勤(了徳寺大学)	
羽野 一志 選手	ラグビー男子セブンス	NTT ミュニケーションズ シャインガークス	
ヘンリー ブラッキン 選手			
張 容興 選手			
池崎 大輔 選手	車いすラグビー	在住	銅
鈴木 孝幸 選手	パラ水泳	在住	金・銀2・銅2
京谷 和幸 ヘッドコーチ	車いすバスケットボール	在住	銀



浦安市にゆかりのあるオリンピック・パラリンピアン等紹介パネル展

なお、上記8人の選手等は、大会終了後に大会の報告として市長を訪問いただきました。その際に、令和3年9月1日に本市が制定した、国際的なスポーツ大会や文化芸術、学術研究の分野におけるコンクール等で優秀な成績を収めた方に対して表彰を行う「浦安市特別表彰」の対象として、ゆかりのある選手等すべてに表彰状を授与しました。



ウルフ アロン選手



中村 妃智選手



羽野 一志選手・ヘンリー ブラッキン選手

※ 張選手は欠席



池崎 大輔選手



鈴木 孝幸選手



京谷 和幸ヘッドコーチ

4. 都市ボランティアについて

大会組織委員会が募集する大会ボランティア（Field Cast）とは別に、オリパラ競技大会開催時の競技会場周辺の主要駅や空港などで交通案内や観光案内等の「おもてなし」を行う都市ボランティア（City Cast）が、県内でも配置されることとなり、千葉市・一宮町・成田市、成田空港のほか、宿泊集積地である本市にも設置されることとなりました

千葉県を通じて平成30年度に募集が行われ、537人より応募があり、面接を経て151人が活動を予定し、大会に向けて研修等を受講しました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、海外からの入国が停止し、オリンピック・パラリンピック共に無観客開催が決定されたことを受け、本市での都市ボランティアの活動は中止となりました。

<都市ボランティアに係る主な取り組みの時系列>

年 月	項 目	内 容
令和元年11月	共通研修	オリンピック・パラリンピックの歴史、障がい者理解の促進、都市ボランティア活動の基礎講義 など
令和3年5月	エリア別研修	大会情報、活動内容、留意点など
令和3年6月	リーダー研修	現地の活動内容、注意事項など
令和3年7月	オリンピック 無観客開催決定	7月8日に開催された、IOC、IPC、日本政府、東京都、大会組織委員会の5者協議により、東京、神奈川、千葉、埼玉の1都3県の会場について無観客開催が決定。
	オリンピック 期間の活動中止	7月9日開催の浦安市新型コロナウイルス感染症対策本部会議にて中止を決定。 ただし、パラリンピック期間の活動については、オリンピック閉会後に示される予定の観客数の取り扱い方針を受けて決定することとした。
令和3年8月	パラリンピック 無観客開催決定	8月16日に開催された、IPC、日本政府、東京都、大会組織委員会の4者協議により、すべての会場が無観客開催が決定。
	パラリンピック 期間の活動中止	8月17日開催の浦安市新型コロナウイルス感染症対策本部会議にて中止を決定。

Ⅲ. 新型コロナウイルス感染症による影響と対応

令和2年（2020年）に開催が予定されていたオリパラ競技大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、令和3年（2021年）夏季の開催へと延期になりました。

このことから、本市が令和2年に受け入れを予定していたすべての事前キャンプなどは延期及び中止となり、令和3年のキャンプも国が示す方針に基づいて受け入れることとなりました。（コロナの影響で、ホストタウン4カ国中、2ヶ国のみでのキャンプ実施。）

また、オリンピック聖火リレーについては、県内全区間で聖火リレーが中止となるなど、コロナの影響を大きく受けました。

	事業名	当初予定	コロナによる影響
①	ホストタウン相手国の事前キャンプ受け入れ	車いすバスケ英国 : 2回 陸上スロバキア : 1回 アーチェリーオランダ : 1回 カヌーフランス : 3回	・陸上スロバキア、アーチェリーオランダ以外のキャンプはすべて中止 ・市民等と選手等との接触を伴う直接的な交流は禁止
②	オリンピック聖火リレー	千葉県3日目第一区間(約5km)のコース設定	県内の全区間で聖火リレーを中止し、各日のセレブレーション会場において無観客の点火セレモニーを実施
③	パラリンピック聖火リレー	「浦安の火」採火式	規模を縮小し、無観客にて実施
④	都市ボランティア	オリパラ期間中に、約150人のボランティアを4名ずつ新浦安駅・舞浜駅の各駅に配置	活動中止
⑤	ホストタウン登録自治体向けチケット	オリ(陸上)、パラ(車いすバスケ)各30枚のチケットを、市民を対象に2枚ペアで公募し有償譲渡	オリパラ共に無観客開催が決定し販売中止 ※(オリの無観客開催は1都3県のみ)

(1) キャンプ受け入れにおける感染症対策

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、平時の事前キャンプ受け入れとは異なり、様々な感染症対策を講じることがホストタウンとして国より求められました。主な対策は以下の6点です。

	対 策	内 容
①	施設の占用利用	練習施設は占用利用、宿泊施設は施設貸切など他者との接触を避ける
②	客室利用人数の制限	複数人で宿泊し、同部屋で陽性者が発生した際は、他者全員が濃厚接触者となり、個室隔離を要す。チームに陽性者が発生した場合は、選手等全員は一旦個室で待機のうえ、活動停止。再検査で陰性の場合、活動再開
③	移動時の動線分離	専用車による移動
④	PCR 検査	選手団および選手団と接触が想定される受入れ関係者は原則毎日 PCR 検査を受検し、陰性の確認がとれた者のみが活動
⑤	陽性者、濃厚接触者対応	陽性者が出た場合は医療機関で行政検査を受け、陽性と判定された場合、保健所の指示で、指定病院もしくは療養ホテルで隔離。濃厚接触者は、練習に参加できるが、練習会場への移動は、他の選手とは別車両で移動し、練習以外は客室に隔離を行い、食事や入浴、トイレ利用時に他者との接触は不可
⑥	各種書類の提出	感染症対策をまとめた「キャンプ受け入れマニュアル」などの書類を作成し、国へ提出

IV. オリンピック・パラリンピック推進事業に要した経費

累計 市負担額：16,659,806円（H29年～R3年）

歳入

年度	経費総額	件名
R元年度	¥2,995,272	車いすバスケットボール英国代表キャンプ費用負担金（2月）
R3年度	¥1,020,000	千葉県ホストタウン等新型コロナウイルス感染症対策交付金
合計	¥4,015,272	

歳出

年度	経費総額	主な事業名
H29年度	¥2,616,810	車いすバスケットボール男子英国代表キャンプ受け入れ（8月） 車いすバスケットボール英国代表の事前キャンプ合意書調印式関連業務
H30年度	¥1,428,675	パラアーチェリー日本代表強化合宿（5月）
		車いすバスケットボール女子豪州代表キャンプ受け入れ（6月） アーチェリーオランダ代表トレーニングキャンプ受け入れ（7月）など
		機運醸成事業
R元年度	¥14,067,467	スロバキアオリンピック委員会との覚書締結
		パラアーチェリー日本代表強化合宿（5月）
		車いすバスケットボール女子豪州代表キャンプ受け入れ（8月）
		カヌーフランス代表キャンプ受け入れ（9月、10月）
		車いすバスケットボール女子英国代表キャンプ受け入れ（2月）
		アーチェリーオランダ代表との調整
R2年度	¥388,180	機運醸成関連事業
R3年度	¥2,173,946	ホストタウン相手国などとの交流
		機運醸成事業
		アーチェリーオランダ代表事前キャンプ受け入れ（7月） 陸上スロバキア代表事前キャンプ受け入れ（7月）
		機運醸成事業 聖火リレー実行員会補助金
合計	¥20,675,078	

V. 今後について

本市は平成 29 年 7 月より専門部署を設置し、市の意思決定機関となる浦安市 2020 東京オリンピック・パラリンピック推進本部を立上げ、「浦安市 2020 東京オリンピック・パラリンピック基本方針」と「浦安市 2020 東京オリンピック・パラリンピック行動計画」を策定し、東京 2020 大会に係る取り組みを推進してきました。

事前キャンプ誘致については、7ヶ国 10 競技団体の視察対応を行い、最終的には英国、スロバキア、フランス、オランダとの交渉を経て、車いすバスケットボール英国代表、陸上スロバキア代表、カヌーフランス代表、またアーチェリーオランダ代表の 4 競技について事前キャンプなどを受け入れる予定となり、4ヶ国のホストタウンとして登録されました。

ホストタウン以外にも、車いすバスケットボール女子豪州代表やパラアーチェリー日本代表と縁があり、それぞれ 2 回ずつのキャンプを受け入れてきました。

このキャンプ受け入れを行う上で、本市はパラスポーツの支援を「基本方針」で掲げていることから、パラ競技の事前キャンプを積極的に受け入れ、それに併せて、浦安市運動公園内施設に多目的トイレを増設するなどバリアフリー整備を行いました。

これらは、パラアスリート支援や障がいがある方などが利用しやすい環境となるなど、オリパラ競技大会が残した本市スポーツ環境形成に繋がる 1 つのレガシーとなっています。

また、事前キャンプ受け入れ以外にも、オリンピックの象徴である聖火リレーのルートに本市が決定したことから、市民がオリパラ競技大会を身近に体感できる機会を提供できる予定でした。

しかし、2020 年より全世界で感染拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、聖火リレーの公道での実施が中止となり、事前キャンプなどについても予定していた 4ヶ国のうち 2ヶ国のキャンプが中止となり、また、実施したキャンプでも国より感染症対策の徹底が求められたことから、事前キャンプ受け入れの大きなメリットとなるはずであった、選手と市民との直接的な交流を行うことが出来ませんでした。

その中でも、前述のとおり、オンラインなど可能な範囲で、各国競技団体と交流を行い、交流を深めることができました。

こうした市・市民と各国競技団体との関係や取り組みは、オリパラ競技大会までの取り組みとして終わらせるものではなく、各キャンプ受け入れ国競技団体と今後も交流を継続し、国内で大会がある際には、本市でのキャンプの実施や、大使館関係者とも連携し取り組みを継続していきます。

また、市に縁のある日本人のオリンピック・パラリンピアンなどとの交流も継続し、障がいのある方などへの理解促進などの共生社会実現に向けた事業などを継続し、浦安市のスポーツ振興や国際交流を発展させると共に、共生社会の更なる実現を目指していきます。